

2011（平成23）年度／第63回舞踊学会大会報告

- 会場：彩の国さいたま芸術劇場
 ○開催日：2011（平成23）年12月3日（土）・4日（日）
 ○大会テーマ：「ダンスの拡張／ハルプリン以後」

<第1日目：12月3日（土）>

■10：00～12：00 一般研究発表A（1） 会場：映像ホール

1	アメリカ人女性ダンサー達と解放運動 富田佳子（武蔵大学・非）	座長 鈴木晶 （法政大学）
2	シャンゼリゼ・バレエ団—第二次世界大戦後フランス・バレエの出發 深澤南土実（お茶の水女子大学大学院）	
3	帝劇興行にみる洋舞の受容 杉山千鶴（早稲田大学）	座長 片岡康子 （お茶の水女子 大学名誉教授）
4	イザドラ・ダンカンの創設した学校—ドイツ，フランス，ロシアの学校を中心に— 柳下恵美（早稲田大学大学院）	
5	観客による舞踊作品構築の構造—表象を配置するダイナミズム概念の役割— 望月崇博（筑波大学大学院）	

■10：00～12：00 一般研究発表B（1） 会場：会議室2・3

1	日韓の舞踊専攻生によるデュエット時の動きと体感の変容 柴真理子（お茶の水女子大学）・坪倉紀代子（十文字学園女子大学）	座長 石黒節子 （お茶の水女子 大学名誉教授）
2	身体表現の意義に関する体験的理解の構造 中村あかね・原みなみ（お茶の水女子大学大学院）・ 福岡小百合（お茶の水女子大学研究生）・柴真理子（お茶の水女子大学）	
3	インドの身体技法がどのように「健康」な心身をもたらすか—授業実践と現地調査からの検討 高橋京子（明治大学）	座長 八木ありさ （日本社会事業 大学）
4	コミュニティダンスワークショップの体験が参加者に与える効果：評価尺度作成にむけての予備的研究 白井麻子（大阪体育大学）	
5	ダンスを通じた集団形成の試み～高校の部活動の指導実践より～ 筒井愛知（環太平洋大学）	
6	コミュニティダンスにおける効果的なファシリテーションに関する考察 —札幌市立教育文化会館教文コミュニティダンス部を事例に— 岩澤孝子（北海道教育大学岩見沢校）	

■12：00～13：30 昼食（理事会）

■13：30～17：00 特別講演&ワークショップ「ダンスの拡張／ハルプリン以後」

司会：外山紀久子（埼玉大学）

第1部：研究の前線から 13：30～14：30 会場：映像ホール

講演：「ハルプリンとジャドソン・ダンス・シアター〈タスク〉をめぐって」

木村覚（日本女子大学）

講演：「ハルプリンの方法論とその基盤にある舞踊思想」

昆野まり子（青山学院女子短期大学・非）

第2部：実践の現場から 14：40～15：30 会場：大練習室

講演："The Nature of Movement, the Movement of Nature:
The Halprin Approach to Dance for Every Body"

Jamie McHugh (Tamalpa Institute)

通訳：中島那奈子（埼玉大学）

第3部：ワークショップ 15：30～17：00 会場：大練習室

Jamie McHugh (Tamalpa Institute)

通訳：中島那奈子（埼玉大学）

■17：00～18：00 総会 会場：映像ホール

■18：00～20：00 懇親会（劇場内「ビストロやま」にて）

<第2日目：12月4日（日）>

■10：00～12：00 一般研究発表A（2） 会場：映像ホール

1	舞踊する身体の構築過程 岡千春（お茶の水女子大学大学院）	座長 松澤慶信 （日本女子 体育大学）
2	振付家とダンサーの間におけるスタイルの共有にみるスタイルの意義 原みなみ（お茶の水女子大学大学院）	
3	ダンス・エスノグラフィーという視角 竹村嘉晃（国立民族学博物館）	
4	緊張が具現化するもの—ルドルフ・フォン・ラバンの舞踊実践における秘教と記憶 齋藤尚大（横浜カメラリアホスピタル）	座長 大貫秀明 （駿河台大学）
5	舞踊の実践知と実践の知識に関する考察—David Carr を中心に— 阿久津孝枝（十文字学園女子大学・非）	
6	運動における自己充実への志向性について 柿沼美穂（国立環境研究所地域環境研究センター）	

■10：00～12：00 一般研究発表B（2） 会場：会議室2・3

1	舞台美術から展開する現代舞踊作品の構想と試作—地域協働による現代舞踊作品制作の在り方・ 国民文化祭おかやま2010「洋舞フェスティバル」上演作品について— 新山順子（岡山県立大学）・岡本悦子（就実大学）	座長 寺山由美 （筑波大学）
2	地域から発信する現代舞踊の模索—国民文化祭おかやま2010をめぐる岡山の事例より— 岡本悦子（就実大学）・新山順子（岡山県立大学）	
3	ダンサーの立場からみる「10年」間隔 —海外活動キャリアをもつ日本人ダンサーの声を手掛かりに— 三輪亜希子（名古屋女子大学短期大学部）・平山素子（筑波大学）	
4	子どもたちのコミュニケーション能力を育むためにアーティストができること～「児童生徒の コミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」におけるダンス分野の取組～ 高橋るみ子（宮崎大学）・児玉孝文（NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER）	座長 岡本悦子 （就実大学）
5	福島県郡山市の林間学校におけるダンス活動の意義と課題 弓削田綾乃（早稲田大学）・竹内エリカ（日本キッズコーチング協会）	

■12：00～13：00 昼食

■13：00～14：00 一般研究発表A（3） 会場：映像ホール

1	舞踏の受容と「間」—「<間>日本の時空間展」を中心に 宮川麻理子（東京大学大学院）	座長 尼ヶ崎彬 （学習院女子 大学）
2	暗黒舞踏における脱自性 ^{エクスタシス} の論理と要件—「器」に読む土方巽の心身関係論— 富田大介（神戸大学大学院）	
3	土方巽と東北・秋田—写真集『鎌鼬』分析 國吉和子（多摩美術大学）	

■14：30～17：00 シンポジウム「ハルプリン以後の身体」 会場：映像ホール

司会：細川江利子（埼玉大学）

討論者：ケイ タケイ（舞踊家、振付家、ケイタケイ's ムービングアース・オリエンツスフィア主宰）

若松 美黄（筑波大学名誉教授、現代舞踊協会理事長）

樋口 聡（広島大学）